

平成29年度 特別養護老人ホーム諏訪苑事業報告（施設・短期）

(1) 入所者の介護度の状況

要介護度	平成26年度3月末	平成27年度3月末	平成28年度3月末	平成29年度3月末
1	3	2	3	3
2	1	2	2	1
3	8	9	5	7
4	5	4	7	8
5	13	13	13	11
計	30	30	30	30
平均介護度	3.80	3.80	3.80	3.70

(2) 入所者の年齢【平成30年3月31日現在】

	男性	女性
入所者数	6	24
最高年齢	100	102
最小年齢	75	76
平均年齢	88.8	90.8
全平均	90.4	

(3) 新規契約者数【平成30年3月31日現在】

区分	人数	昨年度
特養入所	4	7
短期入所利用	11	14

(4) 入所待機者状況【平成30年3月31日現在】

区 別	人 数
男 性	3
女 性	17
合 計	20

(5) 入所待機者の介護度【平成30年3月31日現在】

要介護度	人数
1	3
2	6
3	7
4	4
5	0
計	20

(6) 入所者入所退所の状況

退所者	その他の退所	死亡退所			入所者	入所状況			
		病院	当施設	その他		老健	施設	在宅	病院
藤谷 勇 (4/25)			○		河内キクヨ (4/26)			○ (s s)	
河内キクヨ (5/13)			○		倉崎雪枝 (6/1)			○ (s s)	
山中キミ (10/5)			○		万代カツエ (10/13)			○ (s s)	
真井儀治 (12/8)			○		藤田ミツ子 (12/18)			○ (s s)	

(7) 入所者の状態像【平成30年3月31日現在】

	食事	入浴	排泄	経管栄養実施者	
自立	13	0	5	胃ろう	鼻腔
一部介助	4	12	8	1	0
全介助	12	18	17		

(8) 短期利用状況 (町支援含む) 【介護保険上1日平均： 7.38 人】

年度別	利用日数	稼働率	1日当り利用人数
平成29年度	2,695日	49.22%	7.38人
平成28年度	2,771日	50.61%	7.59人
平成27年度	2,886日	52.71%	7.90人

平成29年度 町支援利用状況	利用日数	月平均利用日数	月平均利用人数
	10日	0.8日	0.8人
平成28年度 町支援利用状況	利用日数	月平均利用日数	月平均利用人数
	23日	1.9日	1.0人

【相談員部門】

◎ ケアと入所者をつなぎ、ご家族と施設、地域と施設をつなぎ、経営・運営と現場、職員間をつなぐことで、皆様に「安心・元気」を提供

重点項目	事業計画	事業実績	成果・評価
入所者、利用者さん 相談援助 家族間調整	入所契約・相談・アセスメント 買い物、外出支援、 各種申請代行手続き 預り金管理 家族会との連携	ホール、居室を訪室し聞き取りを行い、又、家族の面会時に意見要望の聞き取りを実施。 生活歴シートを作成し、契約時や面会時に記入していただき、日々の生活に反映される資料とした。	入居者や家族との関わりの中で意見や要望を聴取し、外出支援や買い物、代行手続きなどの支援ができた。今後も入居者や家族の意向などをケアに取り入れていく。 新規入居者に対し主に作成した。今後も継続実施し、シートを更に活用できるよう改善し、ケアに反映させる。
地域の社会資源 ボランティア	入所者さんの生活暦を基に必要とされる社会資源の発掘 社協ボランティアセンターとの連携・情報収集	ボランティア祭り参加 社協広報誌で情報を発信・募集	新たなボランティアを獲得することはできなかったが、今後もボランティアセンターと連携し情報収集を行う。

◎ 「安心・元気」を提供するための、専門性の向上、「我がとこで暮らす」事の思いを大切に
する仕組み創り

重点項目	事業計画	事業実績	成果・評価
施設内研修	事故・ヒヤリハットの推進	事故防止の研修実施。	緊急時や苑での対応を判断できるように再度、資料等で見直す。 事故に対しての問題意識、問題点に気づき、事故原因を示せる取り組みを行い、周知徹底していく。

◎ 安心して、元気に暮らせるよう、みなさんの権利と尊厳を守る

重点項目	事業計画	事業実績	成果・評価
人権、権利擁護支援、虐待防止身体拘束の廃止	虐待、身体拘束からの視点ではなく権利擁護支援を基本とする取り組み	各検討委員会 (身体拘束廃止、事故、虐待、感染症) ケース会で毎月1回 実施 ・身体拘束・虐待事例はなし	職員の言動により、利用者に対して不快な気持ちにさせてしまうことがあった。 不適切なケアの背景や原因についての検討を行い、合わせて苦情についての体制作りを構築する。
リスクマネジメント 防災対策 事故	避難訓練	第1回 6月15日 日勤帯を想定で総合訓練を実施 第2回 11月12日 夜勤帯を想定で総合訓練を実施 消防職員指導	自動火災報知設備が通報装置と連動となったため、職員への周知とフローの確認を実施。 今後、GHと特養を一体とした連絡体制等をフローに取り入れ訓練を実施していく。
	事故防止	ケース会、検証時に、毎月の事故発生状況及びそれらについての考察を介護職員と共有。	28年度と比較し、事故件数は、特養は減少、GHは増加。 形態別では、ともに転倒事故が大半。 転倒事故については、同じ利用者が、続けて転倒することが数回あった。 事故形態からも月続きで同じ転倒事故が発生していて、事故発生時の分析や対応策が不十分で、事故が再発生した傾向。 今後、再発防止に向けて対応策の見直し、周知方法について徹底できる体制を整備していく。 事故詳細は別紙参照